

登録日	2026/3/24
腫瘍名	非小細胞肺癌

登録番号	Nscl056
申請医師	呼吸器内科

### 投与スケジュール

CBDCA+PEM+リブロファズ (80kg以上)

21日毎 × 4コース

	1コース				2~4コース				(day)
	1	8	15	22	1	8	15	22	
① デキサート パロノセトロン ポララミン 生理食塩水	19.8 mg 0.75 mg 5 mg 50 mL	点滴	15分	↓				↓	
② デキサート パロノセトロン ポララミン 生理食塩水	9.9 mg 0.75 mg 5 mg 50 mL	点滴	15分					↓	
③ ペメトレキセド 生理食塩水	500 mg/m <sup>2</sup> 100 mL	点滴	10分	↓				↓	
④ カルボプラチン 5%ブドウ糖	AUC 5 250 mL	点滴	60分	↓				↓	
⑤ 生理食塩水 (カルボプラチン用フラッシュ)	50 mL	点滴	5分 (全開)	↓				↓	
⑥ ポララミン 生理食塩水	5 mg 50 mL	点滴	30分	↓	↓	↓	↓	↓	
⑦ 生理食塩水 (リブロファズ前投薬用フラッシュ)	50 mL	点滴	5分 (全開)	↓	↓	↓	↓	↓	
⑧ リブロファズ <small>(注意事項のリブロファズ投与④を参照)</small>	2240 mg	皮下注	5~10分	2240mg	3360mg	3360mg	3360mg		

5コース目から、PEM+リブロファズのみPDまで継続

	5コース				6コース				... (day)
	1	8	15	22	1	8	15	22	
① デキサート ポララミン 生理食塩水	6.6 mg 5 mg 50 mL	点滴	15分	↓				↓	
② ペメトレキセド 生理食塩水	500 mg/m <sup>2</sup> 100 mL	点滴	10分	↓				↓	
③ 生理食塩水 (ペメトレキセド用フラッシュ)	50 mL	点滴	5分 (全開)	↓				↓	
④ リブロファズ <small>(注意事項のリブロファズ投与④を参照)</small>	3360 mg	皮下注	10分	↓				↓	

### 注意事項

- ・適応: ①非扁平上皮癌 EGFR遺伝子変異陽性(exon20挿入変異)陽性  
②オシメルチニブ単独治療後に増悪したEGFR遺伝子変異陽性(exon19欠失変異又はexon21L858R変異)
- ・インフュージョンリアクション予防対策
  - ①カロナール  
1~4コース目のDay1は、**前投薬開始前**と**リブロファズ投与の30分前**に、カロナール1000mgを投与する。  
上記に該当しない日は、**リブロファズ投与の30分前**に、**毎回**、カロナール1000mgを投与する。
  - ②デカドロン1回8mg 計5回投与を考慮する(1コース目のみ)  
(Day1の投与2日前から朝夕食後で投与、Day1リブロファズ投与の30分前に投与)
- ・ペメトレキセド開始7日以上前から葉酸0.5mgを連日経口投与する。レジメンを中止または終了する場合には、最終投与日から22日目まで可能な限り葉酸を投与する。
- ・少なくともペメトレキセド開始7日前に、ビタミンB12として1回1mgを筋肉内投与する。  
治療期間中及び投与中止後22日目まで9週ごとに1回投与する。
- ・CBDCA量(mg) = AUC X (GFR + 25) GFRはCLcrを代入する。
- ・皮膚障害対策セットあり
- ・減量、休薬基準、有害事象対策は、リブロファズの適正使用ガイドに準じる
- ・リブロファズ投与
  - ①腹部皮下に約5分かけて投与する。21~23ゲージの注射針が推奨。
  - ②各投与1600mg(15mL)を超える場合、複数のシリンジに分けて投与する。
  - ③複数のシリンジで投与する場合、へその周り5cmを外した異なる腹部四分円に投与する。(次ページ図参照)
  - ④複数シリンジの場合、1シリンジ約5分かけ、順に投与する。減量した場合、シリンジ数が減ることもある。

### 参考文献

- 1) J Clin Oncol, 42, 3593-3605 (2024).
- 2) 各薬剤添付文書(リブロファズ2026年3月改訂版、ペメトレキセド2025年6月改訂版、カルボプラチン 2026年1月改訂版)

# リブロファズ投与方法

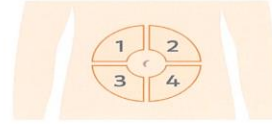
## 投与方法

### 1 適切な体位の確認

- 患者さんに無理のない体位を取ってもらってください。

### 2 投与部位の確認と消毒

- 投与部位はへその周り5cmを外した腹部です。
- 複数のシリンジで投与する場合は、腹部を四つに分けた円の異なる部位に連続して投与してください。
- 皮膚の発赤、挫傷、圧痛、硬結又は癬痕がある部位には注射しないでください。
- 前回投与した部位を避けて投与するようにしてください。
- アルコール綿等を用いて投与予定部位周辺5cmを消毒します。



### 3 薬液の投与

- 1 投与予定部位の皮膚をしっかりと保持し、注射針を挿入します。
- 2 プランジャーをわずかに引き戻し、血液の逆流の有無をチェックし、血管に穿刺されていないことを確認してください。
- 3 本剤を約5分かけて注入します。



投与中	<ul style="list-style-type: none"><li>● 可能な限り一定の速度で注入してください。</li><li>● 注射液の漏出がないか、常時注射部位を観察してください。</li><li>● 患者さんの反応を観察しながら投与してください。</li></ul>
投与中に患者さんが痛みを感じた場合	注射速度を減速又は注射を中断してください。減速又は中断しても痛みが軽減しない場合は、残りを左右逆側の腹部に投与することができます。その場合は、注射液内の不純物や投与量を再度確認したうえで、投与を継続してください。
投与終了後	<ul style="list-style-type: none"><li>● 注射部位を圧迫したり、もんだりこすったりしないよう、患者さんにご指導ください。</li><li>● 使用した注射針とシリンジを適切に廃棄してください。</li></ul>

#### 14. 適用上の注意(抜粋)

##### 14.2 薬剤投与時の注意

14.2.4 腹部投与に、本剤を約5分かけて投与する。複数のシリンジで投与する場合は、へその周り5cmを外した異なる腹部四分円に連続して投与すること。他の部位への投与はデータが得られていない。